

家畜衛生情報

東部地域畜産経営技術推進指導協議会
688号 富山県東部家畜保健衛生所

西部地域畜産経営技術推進指導協議会
富山県西部家畜保健衛生所

2026.9.10

とやまの畜産体験研修が
開催されました..... 1
令和8年度家畜衛生講習会から
話題提供（海外悪性伝染病）..... 2
牛の暑熱ストレスからの
繁殖成績回復にむけて..... 3
家畜保健衛生所業績発表会から
～肝性脳症について～..... 4

電子指示書システム操作講習会が
開催されます..... 5
☆防疫情報..... 6
☆北陸三県和牛子牛市場の結果..... 6
☆10月から家さん一斉点検が始まります..... 6
☆お知らせ..... 6

とやまの畜産体験研修が開催されました



（高校生による哺乳体験の様子）

8月4日に富山県畜産研究所でとやまの畜産体験研修が開催されました。当日、県立中央農業高校の1年生4名、3年生3名が参加し、午前の座学では畜産研究所の職員から、富山県の畜産の概要や酪農の魅力、牛群検定などの説明があり、その後、乳牛協会の会員と意見交換会が行われました。

clover farmの青沼氏からは目指す酪農業について、従業員の金丸氏からはclover farmの仕事についてわかりやすく説明されました。くろべ牧場まきばの風の従業員の高山氏からは農場の仕事のほか、他業種から転職してきた思いを語っていただきました。「畜産業に携わるとしたら」という質問に高校生は、酪農業や養鶏業、家畜種は決められない、いずれ高岡にもどり養鶏業か養豚業を行いたいと回答し、畜産業への興味があることが聞かれました。また、高校生から「子牛の分娩に立ち会ったのにその子牛に逃げられる、どうしたらよいか」質問があり、高山氏から「いっぱい哺乳をしてあげたら」とアドバイスがありました。笑いも混じり、和気あいあいとした雰囲気の中、意見交換会が終了しました。午後からは現場で畜産研究所の職員が堆肥舎や飼料作物について説明し、乳牛舎で餌やりや哺乳、搾乳体験を行いました。

（東部家保環境課 稲葉課長）

令和8年度家畜衛生講習会から話題提供（海外悪性伝染病）

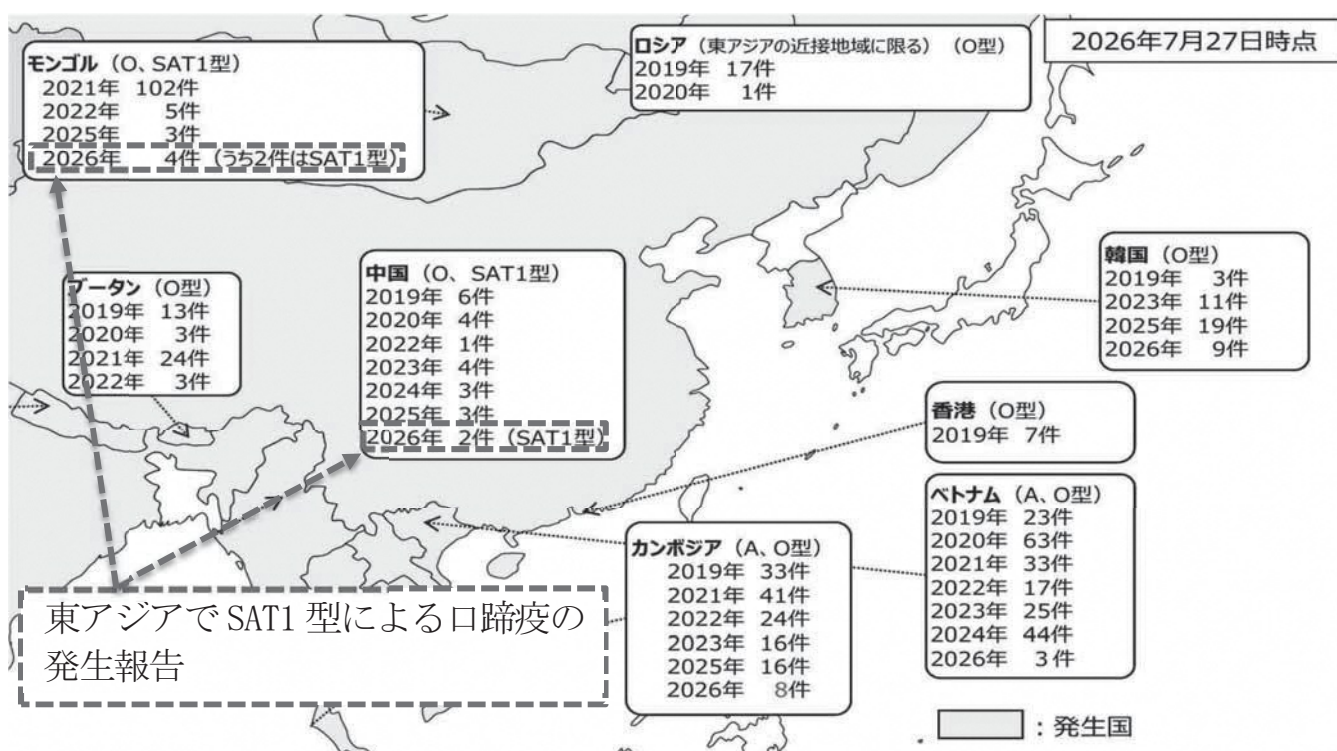
令和8年7月に茨城県つくば市の農研機構 動物衛生研究部門で開催された、海外悪性伝染病特殊講習会に参加しました。講習会で話題に上がった口蹄疫の現状について紹介します。

○ 口蹄疫について

- 口蹄疫ウイルスは偶蹄目の動物に感染し、畜産分野で、牛は感染の有無を発見しやすい検出動物（Detector）、豚は多量のウイルスを排出して感染を拡大させやすい増幅動物（Amplifier）、緬山羊は症状が軽く気づかれにくいため拡散の要因となりやすい拡散動物（Spreader）と言われています。また、感染した豚では牛に比べて、1,000倍以上となる大量の口蹄疫ウイルスが排泄されます。
- 口蹄疫のウイルスは、アジア、アフリカを中心に地域的にまん延しており、それぞれの地域で流行している血清型に対応したワクチン接種や診断体制を整備して対策が行われています。

*血清型が異なるとワクチン効果はありません。

- 今年は、これまで東アジアでは報告がなかった、血清型 SAT 1（SouthernAfricaTerritory＝南アフリカ地域で流行していた血清型）による口蹄疫が、中国とモンゴルで確認されており、東アジアでの感染拡大が懸念されています。



アジアにおける口蹄疫の発生報告状況（農林水産省HPより一部抜粋）

- また、今年1月には、北海道の新千歳空港で、動物検疫所が摘発した海外からの旅客の手荷物（山羊肉（足））から、感染性のある口蹄疫ウイルス（血清型 O 型）が検出されました。
旅客の手荷物から感染性のある口蹄疫ウイルスが検出されたのは初めての事例です。
- さらに、本誌の7月号でもお知らせしたとおり、今年7月に韓国で口蹄疫（血清型 O 型）が養牛及び養豚農場で6件発生しました。韓国では口蹄疫のワクチン接種を継続して実施しており、現時点で続発は確認されていません。人的・物的交流が多い近隣国での発生に加え、訪日外国人旅客数も、昨年、過去最多の4,286万人を記録しています。農場内に病原体の持ち込みを防ぐため、関係者以外の立入を制限するなど、十分な注意をお願いします。
- 外国人従業員や技能実習生を受け入れている農場では、郵送や手荷物での海外から違法な畜産物を国内に持ち込むことがないよう、注意を徹底してください。
- 我が国では平成22年の宮崎県での口蹄疫（血清型 O 型）の発生以降、発生は確認されていませんが、近隣諸国では継続して発生しています。また、空港での口蹄疫ウイルス検出事例からも、病原体がすぐ近くまで迫っていることがうかがえます。改めて、飼養衛生管理基準の遵守による発生予防を徹底するとともに、口蹄疫による特定症状を今一度ご確認いただき、異状を確認した場合は、直ちに管轄の家畜保健衛生所への通報をお願いします。（東部家保防疫課 先名係長）

牛の暑熱ストレスからの繁殖成績回復において

富山の夏も年々暑くなり、湿度も高いため、牛たちに大きな負担となっており、この暑い夏をよく耐えてきたと思います。牛は第一胃という巨大な発酵槽があり、大量のエネルギー生産することができます。第一胃を効率よく機能させるため、平熱でも体温がヒトより高いため、暑さに弱く、体温が高くなるとすぐに食欲不振になります。採食量の低下により、エネルギー不足となり、乳量の減少や繁殖機能の低下がおきます。今回は暑熱後の回復、特に繁殖成績の回復に向けた情報をお届けしたいと思います。

まずは新鮮な水の給与です。体内の65%は水分で構成されており、体温調節や消化・代謝など生命活動の基盤となっています。夏場の水槽は細菌や藻が繁殖しやすく、汚れてしまいます。その結果、十分な水分の摂取ができず、ストレスや体調を崩す原因となってしまいます。水源の状況を確認・清掃、水温・水量・水質のチェック、水槽の清掃・補修など、今一度、給水施設の点検を行い、新鮮できれいな水が給与できているか確認しましょう。

次に良質な粗飼料給与です。牛はβ-カロテンを黄体に貯めやすく、β-カロテンは黄体の機能を高めることで、プロジェステロンの産生を促進する作用があります。しっかりとした黄体を作るには、ビタミン剤の給与だけでなく、β-カロテンを豊富に含んだ良質な粗飼料の給与が必要です。もちろん暑熱による損耗で、ビタミンやミネラルが大量に消費されるため、ビタミン剤での補給や重曹の給与、鉱塩の設置は体の抗酸化や卵巣機能の維持にはとても重要です。

また、暑熱期の分娩は、子宮内での胎盤停滞や悪露停滞になりやすく、産後疾患やその後の繁殖障害の原因となりますので、分娩後1週間程度は直腸から子宮をマッサージして、悪露の排出を促してあげましょう。

飼養管理はもちろんのことですが、朝夕の発情観察や定期的な繁殖検診を実施し、暑熱後の繁殖成績の回復に向け、きちんと発情が来ているか確認することが重要だと考えます。

暑熱期は、牛の発情が来なかったり、微弱だったりします。単に牛の行動学的な問題と捉えがちですが、内分泌的には「性腺刺激ホルモンの分泌不足」または「卵胞からのエストラジオールの分泌不足」という異常を示しています。通常、卵胞から分泌されたエストラジオールは脳の視床下部および下垂体へ正のフィードバックを与えます。その結果として大量の黄体形成ホルモン（LH）が放出され、いわゆるLHサージが起こります。エストラジオールの分泌が十分でないと、LHサージが起こらず、卵巣嚢腫の原因となってしまいます。暑熱ストレスによる繁殖障害として卵巣静止や卵巣嚢腫がよく起こります（図）。

厳しい暑さの中で頑張ってきた牛たちの体は、私たちが思う以上に疲れています。だからこそ、暑さが和らぐこれからの時期は「回復させる管理」が重要になります。牛群の状態をよく観察し、日々の観察と丁寧な栄養管理と繁殖管理を行うことで、一日も早い繁殖成績の回復につなげていきましょう。

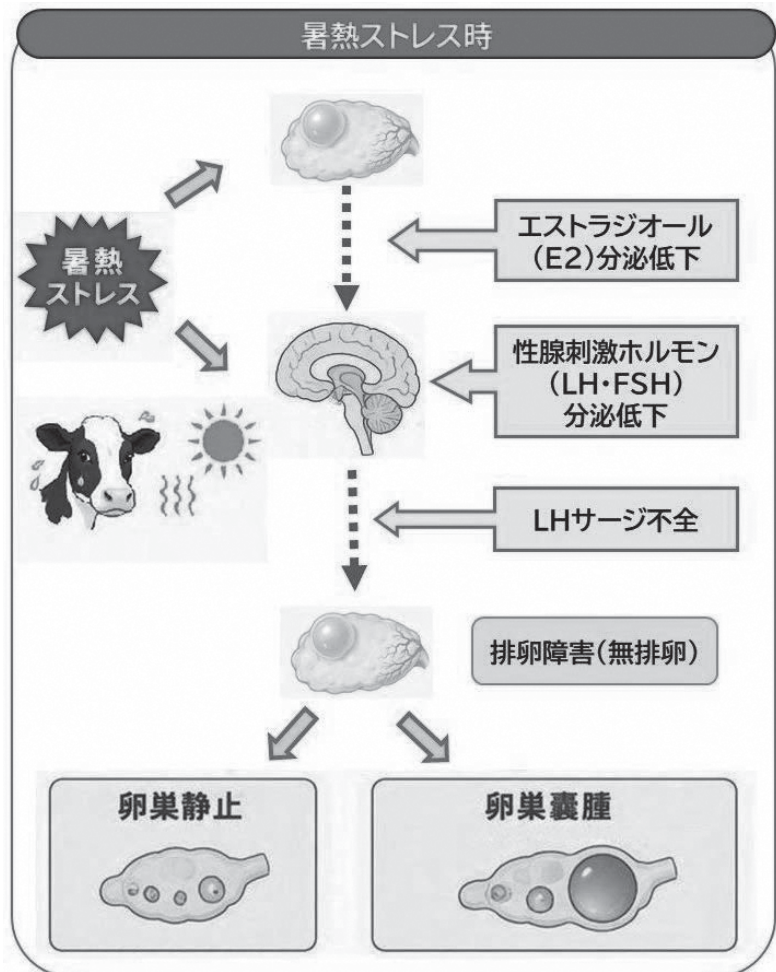


図 暑熱ストレス時に繁殖障害の発生するしくみ
（本図は生成 AI ツールを一部使用して作成しました）

（東部家保環境課 柳係長）

家畜保健衛生所業績発表会から～肝性脳症について～

子牛のふらつきや起立困難といった神経症状に遭遇すると、脳や神経の病気を疑うことが多いかもしれません。しかし、その原因が肝臓にある場合もあります。

肝臓には、腸で吸収された栄養を処理するだけでなく、アンモニアなど体に有害な物質を無害化する重要な働きがあります。何らかの原因でこの機能が低下すると、有害物質が血液中に増加し、脳に影響を及ぼして神経症状を引き起こします。この状態を「肝性脳症」といいます（図1）。

肝性脳症の原因としては、重度の肝障害のほか、先天性の血管異常である門脈体循環シャント（PSS）や肝臓微小血管異形成（HMD）などが知られています。今回は、HMDによって肝性脳症を発症したと考えられた子牛の症例を紹介します。

<症例紹介>

症例は4か月齢のホルスタイン種雌の子牛でした。この子牛はミルクの摂取は良好でしたが、スターターをほとんど食べませんでした。また、離乳のためにミルク給与を中止するとふらつきがみられました。ミルクを給与している間は比較的良好な状態を維持していましたが、月齢が進んでも離乳できなかったため、予後不良と判断し病性鑑定を実施しました。

解剖検査では、肝臓の大きさに著しい異常は認められませんでした。断面ではうっ血がみられました。また、脾臓のうっ血や腎臓の腫大が認められました。脳には肉眼的異常は確認されませんでした。病理組織学的検査では、大脳、間脳および小脳に空胞変性が認められ、一部ではスポンジ状変化を呈していました。このような変化は肝性脳症でみられる代表的な病変のひとつです。また、肝臓では、不整な小血管の増生が認められ（図2）、代謝異常や循環障害を示す変化も認められました。これらの肝臓の所見はHMDに特徴的な変化と考えられました。さらに、生化学検査では尿素窒素（UN）が低値を示しました。UNは肝臓でアンモニアから産生されるため、その低下は肝機能異常や門脈血流異常を示唆する所見と考えられました。これら検査結果から、本症例は、HMDによって肝性脳症を発症したと診断されました。

<HMDとはどのような病気か>

HMDは、肝臓内の門脈末梢枝の発生異常によって生じる先天性疾患です。門脈血が正常に肝細胞へ供給されなくなるため、解毒機能が十分に働かず、アンモニアなどの有害物質が体内に蓄積します。犬では比較的良好に知られている病気ですが、牛での報告は少なく、まれな疾患とされています。また、HMDは超音波検査や血液検査では診断が困難な場合があり、確定診断には病理組織学的検査が必要となります。また、産業動物では治療が難しいため、早期に診断して予後判断することが重要です。

<離乳時にみられる特徴的な症状>

今回の症例では、「ミルクは飲むがスターターを食べない」という特徴的な症状がみられました。スターターなどの固形飼料にはタンパク質が多く含まれており、消化過程でアンモニアが産生されます。通常は肝臓で無害化されますが、HMDやPSSを有する動物では処理能力が低下しているため、アンモニア負荷が増加する離乳期に症状が出やすいと考えられています。

離乳期の子牛で、ミルクはよく飲むのにスターターを食べない、離乳が進まない、発育が悪い、ふらつきなどの神経症状を示す場合には、まれではありますが本症例のように先天性の肝臓の血管異常が関与している可能性があります。こうした症例では早期に原因を調べるのが適切な予後判定につながるため、気になる症状がみられた際には担当獣医師や家畜保健衛生所へお早めにご相談ください。

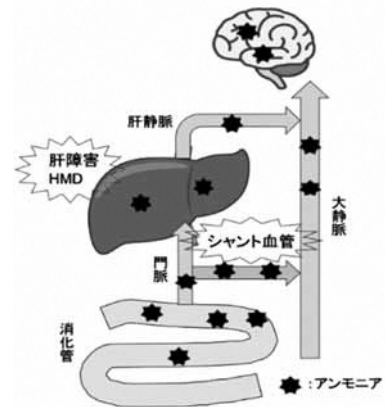


図1 肝性脳症の発症機序

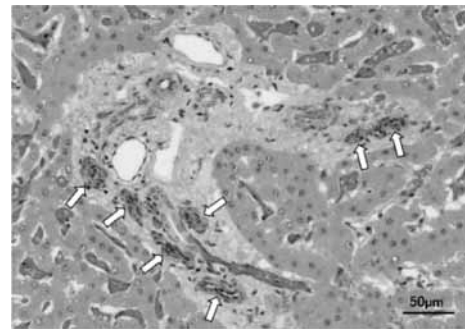


図2 肝臓に認められた不整な小血管の増生（矢印）

電子指示書システム操作講習会が開催されます

電子指示書システムとは、獣医師が発行する要指示医薬品の指示書を電子化し、獣医師・生産者・販売店の間で行われる指示書の発行・受領、動物用医薬品の販売・購入、使用記録の管理までを、システム上で一元的に実施できる農林水産省が運営するシステムです。

本システムを使用することで、紙の指示書の受け渡しや保管に係る手間の軽減、指示書や使用記録の確認の効率化が期待できます。また、動物用医薬品の使用記録をシステム上で管理できるため、記録の整理や確認がしやすくなります。さらに、集計機能等を活用することで、過去の記録の把握や分析にも役立ちます。獣医師、生産者、販売店が同じシステムを利用することで、指示書の発行から動物用医薬品の販売・購入、使用記録の管理までを円滑に行うことができます。

(出典：電子指示書システム操作講習会チラシより)

電子指示書システムでできること(生産者)		電子指示書システムでできること(診療所・獣医師)	
● スマホで指示書の受け取りができる。過去に受け取った指示書の閲覧が容易になる。 ● 指示書内容を引用して使用記録がつけやすくなる。過去の使用記録の閲覧が容易になる。	● 農場ごとの処方を登録したり、過去の指示書を参照できるので、速やかに指示書を作成できる。 ● スマホで指示書が送付できる。(生産者だけでなく、診療所・農場を所管する都道府県へも一度に提出できる。)		
● 指示書を希望する販売店に送付できる。 ● 蓄積した電子指示書データで、自分の農場での医薬品の処方量・使用量を算出できる。 ※他県や全国と比較が可能	● 生産者の記録を確認できるため、今後の指導に参照できる。(生産者が使用記録を入力しており、かつ、獣医師に閲覧を許可した場合。) ● 蓄積した電子指示書データで、自分の指示した医薬品の処方量や使用量を算出できる。 ※他県や全国と比較が可能		

(出典：農林水産省ホームページより)

農林水産省は、本システムを令和7年4月から運用していますが、この度、本システムの操作を体験できる講習会を開催します(主催：農林水産省)。

詳細は以下のとおりです。少しでも興味をお持ちの方は、ぜひご参加ください。

ご不明な点がございましたら、家畜保健衛生所までお気軽にお問い合わせください。

対象	生産農家(牛・豚・鶏)向け	産業動物獣医師(牛・豚・鶏)向け	販売店向け
開催日	9/30(水)、10/9(金)、10/14(水)、10/21(水)、10/30(金)、11/6(金)、11/11(水) (各回定員 20名)	10/1(木)、10/7(水)、10/23(金)、10/28(水)、11/18(水)、12/9(水)、2/10(水) (各回定員 20名)	12/16(水)、1/27(水)、2/17(水) (各回定員 20名)
開催時間	13:30~16:30		
講習会内容	・電子指示書システムの概要 ・アカウント取得/ログイン方法 ・システム全般の基本的な使用方法 ・集計機能など活用方法について		
申込期限	各開催日の 14 日前		
申込フォーム			

・Teams(オンライン)会議での開催です。
・説明を聴きながら実際にシステムを操作する受講形式ですが、聴講のみの参加も可能です。
・用意するもの:パソコン(推奨)

(農産食品課 本多主任)

防 疫 情 報

県内の主な家畜伝染性疾病等の発生

病 名	畜種	発生日	戸数	頭羽数	備考
牛クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症	牛	7月23日	1	1	
牛鞭虫症	牛	8月18日	1	1	
豚丹毒（届出伝染病）	豚	8月5日、24日	2	2	と畜場発見

県内における野性いのしし豚熱 PCR 陽性事例（令和8年8月5日～8月26日検査実施分）

	発見状態	発見又は捕獲日	発見又は捕獲場所	成長区分	性別
1	捕獲	7月31日	氷見市小竹地内	成獣	雄
2	捕獲	8月3日	氷見市長坂地内	幼獣	雄
3	捕獲	8月3日	氷見市老谷地内	成獣	雄
4	捕獲	8月5日	氷見市長坂地内	成獣	雌
5	捕獲	8月14日	氷見市三尾地内	成獣	雄
6	捕獲	8月16日	氷見市五十谷地内	成獣	雄
7	捕獲	8月18日	氷見市中田地内	成獣	雄
8	捕獲	8月21日	氷見市三尾地内	成獣	雄

北陸三県和牛子牛市場の結果

8月27日、金沢市の北陸三県家畜市場で、令和8年度第3回の北陸三県和牛子牛市場が開催されました。今回は全体で去勢78頭、雌41頭の計119頭の取引が成立、富山県からの出品牛は去勢26頭、雌8頭の計34頭の取引が成立しました。平均価格（税抜き）は、去勢で716千円（6月市場773千円）、雌で661千円（同694千円）、全体では697千円（同747千円）でした。また、最高価格は去勢で853千円、雌が765千円でした。なお、当日は悪天候の中での開催となりましたが、取引は滞りなく行われました。次回の開催は10月22日（木）になります。

（東部家保防疫課 槻尾係長）

10月から家きん一斉点検が始まります

家きん飼養者は、10月から5月にかけて、高病原性鳥インフルエンザの防疫対策を徹底するため、飼養衛生管理基準の中から特に重要な「重点指導項目（7項目）」を自己点検し、点検結果を毎月10日までに管轄の家畜保健衛生所へ報告してください。不備があった場合は遅滞なく修繕・改善をお願いします。

自己点検の項目は、下表の7項目です。

- ① 衛生管理区域に立ち入る者の手指消毒等
- ② 衛生管理区域専用の衣服及び靴の設置並びに使用
- ③ 衛生管理区域に立ち入る車両消毒等
- ④ 家きん舎に立ち入る者の手指消毒等
- ⑤ 家きん舎ごとの専用の靴の設置及び使用
- ⑥ 野生動物の侵入防止のためのネット等の設置、点検及び修繕
- ⑦ ねずみ及び害虫の駆除

（東部家保環境課 稲葉課長）

☆ お 知 ら せ ☆

催 事 等	期 日	場 所
富山県畜産共進会（豚の部）	9月11日	富山食肉総合センター（射水市）
令和8年度富山県家畜伝染病防疫演習	10月1日	富山県農協会館（富山市）
令和8年度畜産優良施設等の視察研修	10月7日	石川県金沢市、内灘町

発 行 所 富山県東部家畜保健衛生所 https://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1687/
〒939-3536 富山市水橋金尾新4-6 電話(076)479-1106 F A X (076)479-1140
編 集 者 稲葉 真（富山県東部家畜保健衛生所）
○最新号は右のQRコードからいつでもご覧いただけます。

